鶴ヶ島市 市全域

鶴ヶ島版スーパーシティプロジェクト~歩いて行ける市民センターを拠点としたまちづくり~

概要

・本市には、地域の拠点施設である市民センターが6館あり、そのいずれにも図書館分室が併設されている。この特性を生かし、市内6か所にある市民センターを拠点として、活力にあふれるまちづくりをさらに推進するため、図書館分室のスマート化をはじめとした拠点機能の充実を図る。

課題

- ・更新時期の集中する公共施設の更新、再構成 ⇒ ICT活用による図書館分室の機能転換 【スマート技術を活用した住民利便性の向上】
- (中央図書館へ行かなくても、徒歩で通える図書館分室で充実した図書サービスを受けられるようにする)
- ・急速に進む高齢化などにより、高齢者の単身世帯や高齢者夫婦のみ世帯が増加。孤立や地域活力の低下 ⇒ 市民センターを活用した取組、地域コミュニティの充実 【地域の 拠点機能の充実】
- ・災害の激甚化 ⇒ それらの取組を推進するために必要な施設改修 【地域の拠点機能の充実・スマート技術を活用した住民利便性の向上・地域レジリエンスと地域脱炭素化の推進】

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の 協力を得たい分野・内容
コンパクト	地域の拠点機能の充実	長期 (R6~)	 ・地域福祉、健康づくりなどの推進 市民に身近な地域の拠点施設である市民センターを活用し、地域活動、地域福祉、健康づくりなどの様々な分野の事業展開を図る。(「包括的支援体制」や「健康づくりを支える仕組み」の整備など) ・地域コミュニティの充実 自治会や地域支え合い協議会などの様々な団体のつながりを促進し、地域の課題の解決に向けた取組を支援することにより、地域活力の維持向上を図る。 ・鶴ヶ島駅周辺地区まちづくりの推進 ・市内企業との官民連携事業による公園の再整備 ・公共施設再編による交流拠点整備 ・駅と拠点間の道路・歩行者空間の整備、憩いスペースの創出 	・公共施設再編・包括的支援体制の整備・健康づくり
スマート	スマート技術を活用した住民利便性の向上	中期 (R7~)	 ・スマート技術を活用した図書館運営の見直し(スマート図書館への転換) ICT活用による図書館分室(各市民センターに併設・6室)のスマート化を図る。 ・バスロケーションシステムのデータ活用 バスロケーションシステム(導入済み)のデータをつるバス・つるワゴンのルート・ダイヤ見直しなどに活用する。 	・図書館運営の見直し ・公共交通
レジリエント	地域レジリエンスと地域脱炭素化の推進	長期 (R5~)	・避難所などへの太陽光発電及び蓄電池の整備 災害時の強靭性向上及び地域の脱炭素化を同時に推し進めるため、避難所となる 学校や市民センターなどへの太陽光発電設備及び蓄電池の整備を進める。 また、災害時に電気自動車(EV)を蓄電池として利用できるよう、V2Hシステムの活用を図る。	・脱炭素の取組 ・太陽光発電及び蓄電池 (EVを含む)の整備・活用

(参考) 図書館及び市民センターについて

【図書館の現状】

	蔵書	人員	場所
中央図書館	〇 (多い)	〇 (多い)	× (誘導区域の外)
分室[6館]	× (少ない)	× (少ない)	(誘導区域の近く)

【市民センターの特徴】

- ・少子高齢化による様々な地域課題を、地域で解決できる体制・仕組みを構築す るため、市内6か所に市民センターを設置(H27年度に公民館を改編して設置)
- ・居住誘導区域内(又は同区域の近く)にあり、多くの市民が徒歩でアクセス可能
- ・児童館や図書館分室を併設している。特に、図書館分室は全ての市民センターに 併設しており、配架・閲覧のために広いスペースを有する

ICT活用により分室機能を充実

中央図書館へ行かなくても、それぞれの分室で同等のサービスを提供

歩いて行ける身近な市民センターで、充実した図書館サービスが受けられるまちへ

《図書館の配置(中央図書館、若葉駅前カウンター、分室)》

地域コミュニティ等施設、庁舎等 ●その他地域コミュニティ等施設、庁舎等 若葉駅前カウンター 学習施設 ●図書館 、施設の中心から徒歩圏 (800m) 図書館北分室 庁舎 図書館南分室 図書館西分室 中央図書館 図書館大橋分室 3000 4000 m

《市民センターの配置》



(参考) 鶴ヶ島市立地適正化計画で設定している居住誘導区域

